

多様なつながりがみられる社会へ

発達障がいの有無にかかわらず、人は誰しもが、家族はもちろんのこと、たくさんの人たちとのつながりの中で生きています。そのあり方は多様で正解はありませんが、自分が納得できるつながり方を発見し、自立への一歩を踏み出すことで、社会より豊かな関係を築くことができます。

その後の
虎夫さんは

相談員からアドバイスをもらい、自らの意志で就職活動を始めた虎夫さん。希望しているパン屋への就職が決まりました。



その後の
卷子さんは

グループホームでの生活を始め、家族との程よい距離感を見つけることができ、自立への一歩を踏み出した卷子さん。仕事についても前向きに検討し始め、周りに相談にのってもらいながら、就職活動をしたところ、とある会社の事務員として就職が決まりました。



虎の巻

職場で使える虎の巻

発達障がいのある人たちへの八つの支援ポイント

必読!

多様なつながりの中で自分に自信を持ち、仕事を見つけ、社会への確かな一歩を踏み出した虎夫さんと卷子さん。しかし、職場には新たなトラブルが…。発達障がいのある人たちが職場でトラブルになりがちな“認識の違い”とその解決策となる支援ポイントを示した『職場で使える「虎の巻」』も、ぜひご覧ください。



この冊子をご活用される方へ

この冊子では、プロジェクトにおいて度重なる議論を行った末、この冊子が同様の悩みを持ち苦しんでいる方々へ、少しでも「希望」を届けたいとの考えから、“グッドジョブ”として掲示する最後の一コマを“限りなくベスト”な結果として描くこととしました。

実際の現場においては、“チェンジ”として掲示したような解決策が短期間でベストな結果を生み出すことは少なく、様々な状況改善の手立てと長い時間をかけた上で、ようやく少しだけ解決に近づく、といったケースが一般的です。

本冊子で伝えたいのは“人とのつながり”です。一人で、あるいは家族だけで抱え込まず、相談員や親の会などの支援者をつなぎ、分かち合いながら、改善の一歩を踏み出してもらうための一助として、この冊子が活用されることを期待しています。